

令和元年度 経営協議会の学外委員からの意見等に対する対応状況

文理融合 AI・データサイエンスセンター（令和元年 6 月設置）について

（令和元年 10 月 15 日開催 第 2 回経営協議会）

【学外委員からの意見等①】

・文理融合 AI・データサイエンスセンターとともに工学部を構想するならば、プログラム存続期間で事業が終わらないよう、大学として全体構想を考えて、整合させる必要がある。

・工学部の新設構想は、素晴らしいことである。時代の要請に合わせ、旧来の学部に捉われない抜本的な学部再編を行う必要がある。工学部の設置はお茶の水女子大学の歴史を変える試みだろう。理系の女性リーダー育成のためにも、充実した学部にしていただきたい。

【対応状況①】

Society 5.0 の到来に対応した未来の社会を牽引できる女性リーダーの育成を目的として、下記のとおり、既存事業と新規事業を関連付けながら、「人間生活工学部（仮称）」の令和 5 年度設置に向けて準備を進めている。

令和 3 年度概算要求機能強化経費事業「AI・データサイエンスを駆使する理工系女性リーダーの育成基盤の形成」の組織整備分として継続・拡充要求を行った。要求が認められた場合、文理融合 AI・データサイエンスセンターに、ロボット工学分野の教員 1 名（令和 2 年度より継続）及びデザイン心理学分野の教員 1 名（令和 3 年度から拡充）を配置する予定である。

当該教員は文理融合 AI・データサイエンスセンターに設けられる工学部設置準備室において、「人間生活工学部（仮称）」のカリキュラム編成や設置審査準備・申請、入試準備などの令和 5 年度工学部設置に向けた開設準備も行う予定である。また、新学部設置後はセンターと新学部の両方に所属し、学部の中核として教育研究を担うとともに、センターと学部連携の架け橋となることで、時代のニーズに合ったデータサイエンス教育を提供していく。

【学外委員からの意見等②】

学部1年次からデータサイエンスの授業を行っているとのことだが、統計的な手法の基礎となる考え方を習得することは、文系・理系問わず全ての学生にとって必要である。大学の基礎的な教育として、是非、進めていただきたい。

【対応状況②】

従前はデータサイエンスに関する授業が散在し、学生がどの科目を履修すればよいか分かりづらい面があった。学生がデータサイエンスを体系的に学べるようにするため、学部1、2年生を対象とした従前の科目に加え、学部3年生以上を対象とした科目も設置し、令和2年度より、全学年を通じた一つのカリキュラム（全学データサイエンス学際カリキュラム）として明示した。

令和元年度より、全学部生を対象として数理・データサイエンス教育（リテラシーレベル）を一部開始し、令和2年度からは、全学部生を対象として数理・データサイエンス教育（リテラシーレベル～応用基礎レベル）を実施している。

【学外委員からの意見等③】

現在、データサイエンティストに関連する資格を取得する者が増える動きがある中で、お茶の水女子大学では、単に専門家を養成するだけではなく、グローバルな視点でリーダーシップを発揮しつつ、社会を良くするために情報を駆使し、世の中に発信していける人材を育成していただきたい。

【対応状況③】

社会的課題を解決するイノベーションには、工学、理学の知識のみならず、人文社会的な知識も必要となるため、新学部を文系理系の壁を越えて、既存の三学部の中心に位置付けるよう構想している。

「人間生活工学部文化情報工学科（仮称）」（令和7年度設置予定）では、基盤となるデータサイエンス科目に加え、人文学系科目を履修することで、文化・芸術等、人文科学の情報をデータサイエンスの技法を用いて解析し、デジタルデータやデバイスを用いて発信する力を身につけた学生を育成することを目指していく。

【学外委員からの意見等④】

AI、データサイエンスは昨今、多くの大学、機関等で扱われている課題である。その中で、是非、お茶の水女子大学の特徴が出るような取組を行っていただきたい。女性目線でのオープンデータの活用には、お茶の水女子大学らしさが出せるのではないか。

【対応状況④】

世間に氾濫するデータのほとんどが男性の目線で収集、分析され、女性にとって好ましい成果が得られているとは言えないことから、女性の視点や男女の違いに基づいたデータ収集を行い、女性が使い易い製品や男女で効果の異なる医薬品の開発に活かす等の動きが若い研究者の間で始まっており、今後の研究の進展が期待される。

例えば、乳がん検査を受ける女性にとって、痛みや被曝の無い非接触の乳がん検査装置を開発中である。